

「鎌足桜」の魅力

「鎌足桜」は、ヤマザクラの一種と考えられ、4月中旬から下旬にかけて開花する遅咲きの八重桜です。若葉の新芽が先に芽吹き、つぼみは紅色で、咲き始めると淡桃白色に花色が変化し、清楚さと気品を兼ね備えた優美な桜は、新緑に映えて見る人々を魅了します。



開花後八分咲きほどになると、雌しべが中花に変化し、二段咲きとなり、元花と中花とが一体となって、より一層優雅な花卉となります。そのため、開花期間も長く楽しむことができます。

また、雌しべの先端が、鎌状に曲がっていることから、中臣鎌子(藤原鎌足公)誕生伝説の由縁ともなっています。



伝説に生きる「鎌足桜」

藤原鎌足公が、高倉観音へお礼参拝のため、この地を訪れたとき、持っていた桜の木の「杖」を傍らの土手に挿して旅装束に着替えました。桜の木の「杖」は、そのまま根付きました。その後、土地の人々は鎌足公に因んで「鎌足桜」と呼ぶようになったとのこと。



藤原鎌足肖像

後の「藤原鎌足公」と伝えられています。藤原鎌足公が、高倉観音へお礼参拝のため、この地を訪れたとき、持っていた桜の木の「杖」を傍らの土手に挿して旅装束に着替えました。桜の木の「杖」は、そのまま根付きました。その後、土地の人々は鎌足公に因んで「鎌足桜」と呼ぶようになったとのこと。



高蔵寺

今から千四百年ほど前のこと、矢那の郷に大化の改新で功を成した大織冠藤原鎌足公の祖父猪野長官が住んでいました。長官は五十歳を過ぎても子宝に恵まれなかったため、高倉観音に参籠し子授けを祈願しました。満願百日目に妻が身ごもり、ようやく女の子を授かりました。観音様の靈験によって授かったので子与観(しよかん)と名付けられ娘は大事に育てられました。

「鎌足桜」を護り育てる



「鎌足桜」の祖株は、木更津市矢那小字山下にある旧家で永年育てられてきました。

昭和37年頃、枯死寸前で「鎌足桜」が絶えてしまうことを心配した地元に住む鈴木治作氏が、豊中市に住む尾高正翁氏の協力を得て、京都の桜づくりの名人として有名な第15代佐野藤右衛門氏に、新芽を切り取って京都まで持参し、苗木の育成をお願いしたとのことです。



10年余りの歳月を費やし、昭和47年に2本、48年に10本の苗木が里帰りし、高蔵寺・徳蔵寺・鎌足小学校・太田山公園などに植樹されましたが、その多くは枯れ絶えてしまったとのことです。

その後、地元でも接木による苗木の育成を手がける人が現れ、市内の各地にも植樹されるようになりました。



いやさか 「鎌足桜」の弥栄を祈る

意味
かの有名な大織冠（藤原鎌足公）がお手植えになった鎌足桜は現在に至っても大変に富み栄えていて、万世を通じて珍しい言うに言われぬ程すばらしい花を咲かせる鎌足桜の木の将来の幸福を願う者でございます。

意味
この秋晴れの良き日に
益々盛んな
鎌足桜の株

宗夢

読み
名尔之阿ふ 大将冠
鎌足さくら盤 今ニ至
天も 采繁昌万代
稀余累 妙木を祝
侍亭
乙酉秋日

読み
日能安幾尔
未すや
鎌足佐久ら株

宗夢



「鎌足桜」の祖株のあった旧家に伝わる掛軸

「鎌足桜」を鑑定



鑑定中の佐野氏

平成20年4月、本保存会の顧問にもなっている京都の桜守第16代佐野藤右衛門氏により、「鎌足桜」の鑑定調査が行われました。

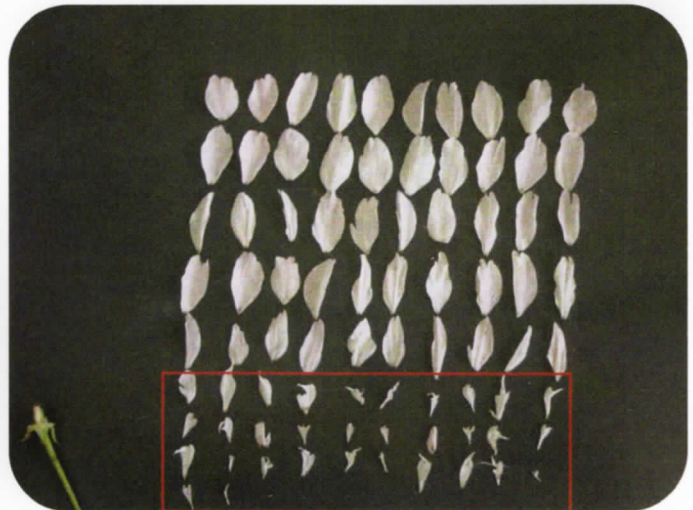
佐野藤右衛門氏から送られてきた鑑定書

鎌足桜

花径	49 mm
花梗	49 mm
萼筒	なし
花弁	82 枚
雄	0
雌ずい	0
葉柄 (織毛)	なし
いぼ	3

青 雌蕊 → 葉柄
 黄 雄蕊 → 花弁
 赤 花弁

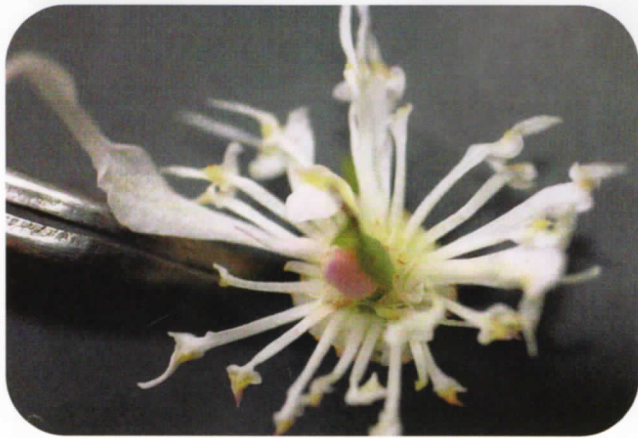
花びらをばらすと、雄しべが変化して花弁状になるため、花弁数は全体で82枚あります。



「鎌足桜」は観音桜

雌しべはつぼみの状態から中花に変わり、さらに中花を包み込む葉しべにも変化しているようです。

葉しべが、仏像の舟形光背状態となって中花を受け止めていることから観音菩薩像にも見えます。



花卉に変化した^お雄しべも、蓮華形に作った仏像の台座状になっています。



満開時には、内側の開花した中花と外側の元花が一体した優雅な花となることから、観音桜とも呼ばれています。



膨らんだつぼみは、蓮の花のつぼみを連想させます。



「鎌足桜」を広める

平成17年に、木更津市矢那小字山下に古くから伝わってきた祖株が、木更津市指定文化財の指定を受けたことから、地元の区長会を中心に鎌足桜保存会が結成されました。

そして、平成18年には伝説にゆかりのある高蔵寺境内に祖株が移植され、多くの人達が訪れるようになりました。

また、「鎌足桜」の保護・育成と、広報・文化交流活動を更に大きく広げるために、平成19年に鎌足桜保存会を解散し、新たに木更津市鎌足桜保存会が設立されました。



高蔵寺にある祖株



矢那川ダム公園

保存会では、地域にある「鎌足桜」の保護活動とともに、藤原鎌足伝説にゆかりのある鎌倉浄妙寺や茨城県鹿島神宮への苗木の移植などを進めてきました。また、「鎌足桜」の魅力を多くの人達に知ってもらうための鎌足桜カレンダーの制作・頒布や、「鎌足桜」の苗木の増殖・育成活動などにも取り組んでいます。



平成25年版鎌足桜カレンダー表紙

平成25年2月には、木更津市制施行70周年記念事業の一環として、鎌足さくら公園(かずさ1号公園)に40本の鎌足桜と73本のソメイヨシノの苗木の植樹が計画され、木更津の新たな桜の名所として大きく期待されています。

「鎌足桜」を増やす

方法でも、活着する確率は低く、苗木を多量に育成することが難しいと言われています。また、台木の性質が現れ、本来の「鎌足桜」ではない性質の桜が出来ることがあります。

木更津市は市の指定文化財でもある「鎌足桜」の祖株の性質を受け継いだ苗木を確保していくために、平成二十一年に、光独立栄養培養による「容器内挿し木技術」を開発した民間会社に委託して、バイオ技術を用いた挿し木による増殖試験を行いました。

その結果、平成二十二年二月に九十三本の苗木が届き、地元の造園家によって大切に育てられています。



「鎌足桜」は、実
ができないことや、
挿し木による苗木
の育成が難しいた
め、接木による苗
木育成が行われて
きました。

この接木による

「鎌足桜」の沿革

- 寛文元年 (1661) 「坂東三十番札所高蔵寺伝記」に藤原鎌足公誕生伝説が記される。
- 天保3年 (1832) 田丸健良編「房総志料続編」で、高蔵寺に「鎌足桜有り」と記される。
- 大正3年 (1914) 「鎌足村誌」に、鎌足村の村名の由来とともに「鎌足桜」の伝承が記される。
- 昭和30年 (1955) 木更津市に合併後に発行された「鎌足村誌」に、進藤家に伝わる掛軸に記された「鎌足桜」の歌が紹介される。
- 昭和37年 (1957) 地元の鈴木治作氏により、第15代佐野藤右衛門氏に苗木育成を依頼。
- 昭和47年 (1967) 2本の苗木が里帰りし、高蔵寺・徳蔵寺に植樹。
佐野藤右衛門氏により大阪造幣局に植樹。
- 昭和48年 (1968) 10本の苗木が里帰りし、鎌足小学校・太田山公園などに植樹。
- 昭和60年 (1985)頃 鎌足歴史散歩の会が苗木を育成し、校舎移転後の鎌足中学校・鎌足公民館等に植樹。
- 昭和63年 (1988) 林弥栄氏が「鎌足桜の祖株」を調査研究し、日本花の会会報40号「花の友」で発表。
- 平成6年 (1994) 地元造園家により、「鎌足桜」の祖株の穂木を用いて、接ぎ木での苗木育成を始める。
- 平成10年 (1998) 「鎌足を考える会」が、矢那川ダムのお花見広場に鎌足桜を植樹。
- 平成16年 (2004) 木更津市矢那小字山下の旧家にあった祖株が、木更津市に寄贈される。
- 平成17年 (2005) 2月「鎌足桜」の祖株が、木更津市指定文化財になる。
3月木更津ロータリークラブが、木更津市民総合福祉会館に植樹。
5月「鎌足桜」の保護育成を目的として、地元で鎌足桜保存会が結成される。
- 平成18年 (2006) 2月祖株が高蔵寺の境内とかずさ2号公園に移植される。
3月「第41回さくら祭り中央大会」の記念樹として東京の憲政記念館に植樹。
- 平成19年 (2007) 7月地元鎌足桜保存会が発展的に解散され、木更津市鎌足桜保存会が結成される。
- 平成20年 (2008) 2月鎌倉市浄妙寺に苗木を植樹。
4月第16代佐野藤右衛門氏により「鎌足桜」祖株の鑑定調査が行われる。
鎌足かるた会により「平成21年版鎌足桜カレンダー」が制作される。翌年から木更津市鎌足桜保存会が制作し頒布する。
- 平成21年 (2009) 2月茨城県鹿嶋神宮に苗木を植樹。
木更津市が、バイオ技術を利用した挿し木による苗木育成実験を民間会社に委託。
- 平成22年 (2010) 苗木育成実験が成功し、里帰りした苗木が地元造園業者によって育てられる。
丸善発行の『さくら百科』で「鎌足桜」が紹介される。
- 平成23年 (2011) 歌謡曲「鎌足桜」(紺野あずさ作詞、岡千秋作曲、南郷達也編曲)が歌手小桜舞子により歌われCDが制作される。
- 平成25年 (2013) 2月17日木更津市制施行70周年記念事業として、「鎌足さくら公園(かずさ1号公園)」に40本の鎌足桜と73本のソメイヨシノの苗木を植樹。



大阪造幣局



憲政記念館



小桜舞子